

## ■ パンジー・・・



イメージとして春の花だと思われている方が多いと思いますが、実際は、殺風景な季節の彩りに欠かせない、代表的な冬の花と言っていいでしょう。

19世紀以来、パンジーは交配が進み、黄金色、オレンジ色、紫色、スマイレ色、黒（濃青）など多彩な色彩をもっています。しかも、とても丈夫な植物で、日当たりさえよければ、木枯らしの中でも実にたくましく生長します。

パンジーは秋蒔きの一年草ですが、寒冷地では多年草となることがあります。通常のライフサイクルの完結には足掛け2年を要します。つまり、1年目に青葉を茂らせて冬を越し、2年目に花実をつけた後に枯死するのです。日本の多くの地域は夏の気候が暑すぎるため初夏の訪れとともに枯れてしまいます。時に、こぼれ種でも自然に増えます。

パンジーの名は、フランス語の「パンセ（考える）」に由来しています。つぼみが下を向く花姿が、人が頭を垂れてもの思う様子に見立てられて命名されたと言われています。花言葉が「思慮深い」なのも納得です。

似ている品種に「ビオラ」があります。園芸の世界では、一般的に花の直径が3～5cm以上のものをパンジー、それより小さいものをビオラと区分けしています。ビオラとは、本来「スマイレ属名 Viola」のことです。

シェイクスピアの「夏の夜の夢」では、パンジーの花を絞った汁が愛の妙薬として登場していますが、残念ながら、パンジーにそんな雰囲気を感じることはできませんね。